

國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕 ジョセフ・ニーフ、ペスタロッチ主義、
そして教育研究の人間的側面

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2023-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高屋,恵一, Takaya,Keiichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000149

ジヨセフ・ニーフ、ペスタロッツチ主義、 そして教育研究の人間の側面

高屋景一

スイスの教育者ヨハン・ハインリッヒ・ペスタロッツチ（一七四六—一八二七）の思想と実践に発するペスタロッツチ主義は英語圏では特に「オブジェクト・レッスン」として知られ、今日では形骸化された時代遅れの方法と見られている。しかし学校教育が始まったばかりの一九世紀、特段の専門的知識や技能を持っていなかった教師に史上初めて専門職としての理念と方法を提供したのがペスタロッツチ主義であり、その歴史的意義は評価されるべきである。

ペスタロッツチ主義の系譜には興味深い人物が何人もいる。ペスタロッツチ自身、様々な事業に失敗したのち五〇歳を過ぎてから教師になった。ここでは特にジヨセフ・ニーフ（一七七〇—一八五四）を取り上げたい。

ニーフはアルザス地方の生まれでナポレオン戦争に従軍して負傷、療養中にペスタロッツチの著作に感銘を受け、回復後ペスタロッツチがスイスのブルグドルフで古城に開いていた学校で音楽と体育とフランス語を教えた。戦争時の銃弾が頭の中に残っていて、終生頭痛に悩まされたそうである。彼の人となりについて元生徒がこう言っている。

「体育の先生のニーフが独特の愛嬌を持って仲間に入ってくると、私たちは大喜びだった。ニーフは世界中で戦った古強者だ。髭を生やした大男で、強面の顔、見た目は厳しい無骨者だが、優しさそのものだった。彼が六〇人から八〇人もの子どもを引き連れて大声を張り上げて行進している様子は、学校中の注目を集めた。ブルグドルフでは娯楽といえば歌だった。私たちはどこでも歌った。郊外に出かける時は青空の下を歩きながら、夜は城の中庭で。皆で歌うことで朗らかになり、仲が保たれた。ニーフは一見無骨だったが、生徒の一番のお気に入りだった。いつも子どもたちと共に

過ごし、そうすることに無上の喜びを感じていた。彼は子どもたちと一緒に遊び、運動し、歩き、泳ぎ、石投げをした。だからこ子どもたちは彼の言うことを何でも聞いたのだ。彼は根っからの教育者だったが、決して先生ぶらなかった。」

(Will S. Monroe, *History of the Pestalozzian Movement in the United States*, Arno Press, 1969 [1907], pp.63-4; 高屋記)

ニーフは、ペスタロッチの方法と彼の学校の雰囲気感銘を受けたスコットランドの商人で地質学者のウィリアム・マクルーアがアメリカのフィラデルフィアに学校を計画した時にペスタロッチに推薦され渡米した。その後、マクルーアとロバート・オーエンが作ったインディアナ州ニュー・ハーモニーの実験的共同体に加わったが、これはマクルーアとオーエンの仲違いにより二年ほどで瓦解してしまった。ニーフもいくつか学校を作ったが、どれも長くは続いていない。それなりに周囲と衝突することのあった人物のようだ。学校の一つが閉鎖にいたった理由は、彼の宗教的寛容が無神論を助長していると非難されたことにあるらしい。

ニーフは語学の才能もあった。英語も短期間で習得し、教育理論の本 *Sketch of a Plan and Method of Education* (1808) を書いた。教育思想史研究者の J・J・チャンプリスは同書をアメリカ教育哲学の起源の一つとしている。この本にはペスタロッチとともにフランス感覚論の哲学者コンディヤックの影響が見られる(ニーフはコンディヤックの『論理学』も英訳出版している)ことから、彼が単なるペスタロッチ信者ではなかったことがうかがえる。

ニーフの活動は一九世紀前半の散発的なペスタロッチ主義伝播の一例で、大きな影響は持たなかった。しかし一八六〇年代になるとペスタロッチ主義はニューヨークのオスウィーゴ師範学校を中心に広まったオブジェクト・レックスンによって、アメリカの教員養成制度成立に大きな影響を与えた。オスウィーゴでは明治政府によって派遣された高嶺秀夫や、一時期津田梅子も学んだ。高嶺はペスタロッチの助手の一人ヘルマン・クリュージイの息子でオスウィーゴの教師だったクリュージイ Jr 宅に寄宿して家族同然に可愛がられ、帰国後の手紙でも彼をアメリカの父と呼んでいる。こういう人間的な繋がりをみるのも、教育の歴史を研究する面白さの一つである。

(英語／教育哲学、教育思想史、カリキュラム論)